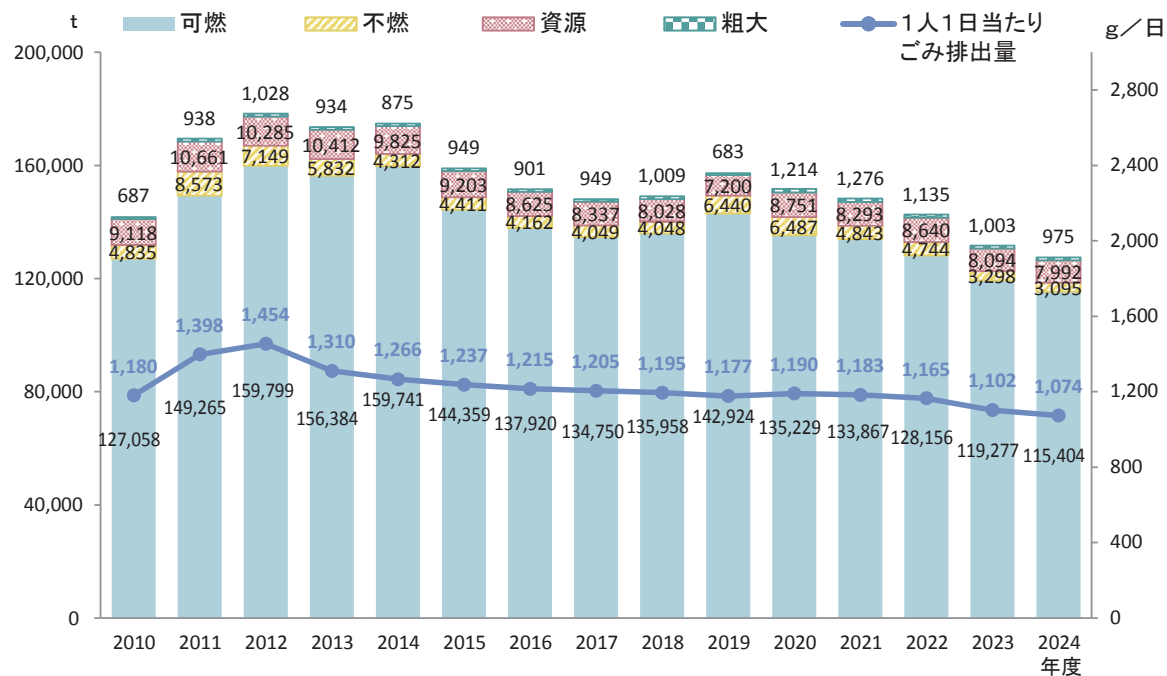




●ごみの種類別排出量

東日本大震災や令和元年度台風などの影響によりごみ排出量が増加しましたが、近年は、全体的なごみ排出量、1人1日当たりごみ排出量ともに減少傾向にあります。

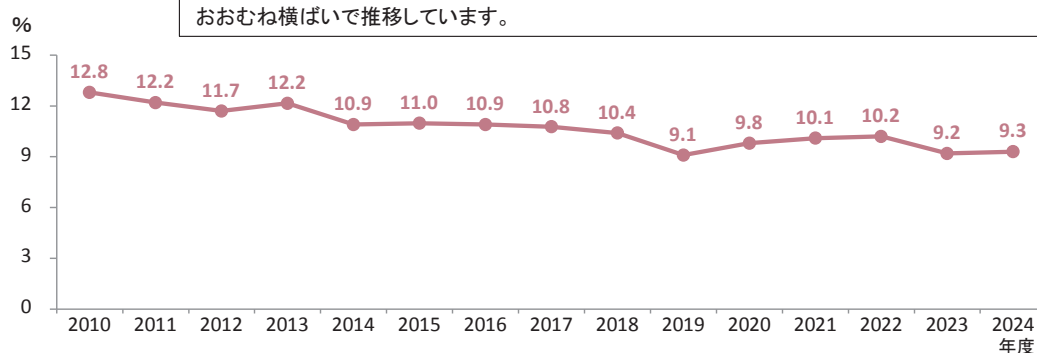


※2010年度～1人1日当たりごみ排出量については環境省公表の数値に切り替えましたので2025年版データブックと数値が異なります。

資料：郡山市統計書
ごみ減量推進課

●リサイクル率

民間事業者による資源物回収が促進されていることにより、近年、本市収集・回収のリサイクル率はおおむね横ばいで推移しています。

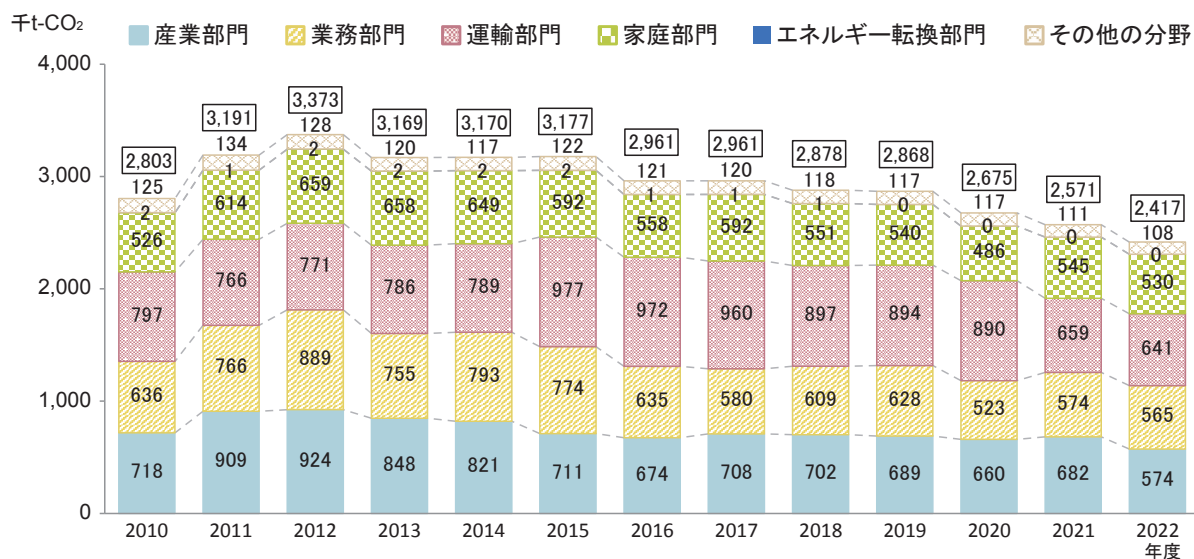


$$\text{※リサイクル率} = \frac{(\text{資源物分別収集量} + \text{破砕処理による資源回収量} + \text{集団資源回収量})}{(\text{ごみ処理量} + \text{集団資源回収量})} \times 100$$

資料：ごみ減量推進課

●温室効果ガス排出量

温室効果ガス排出量は各部門で減少傾向にあります。

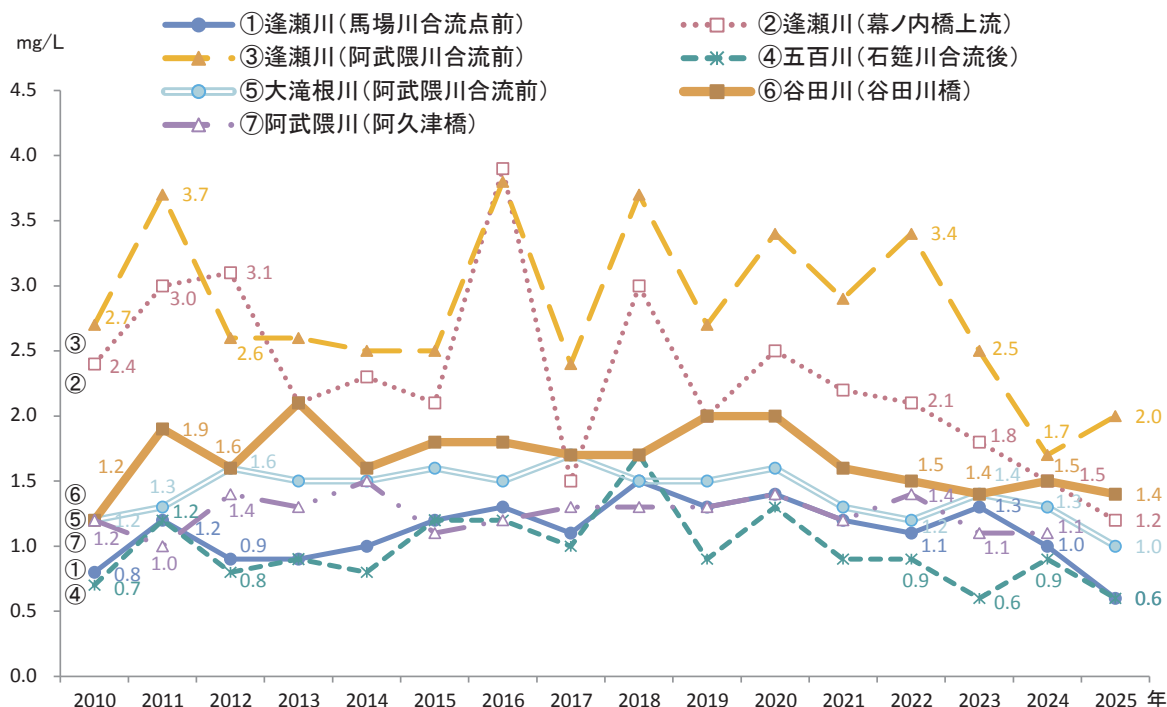


※国の統計データ修正により、過去の数値が変更となる場合がありますので、最新のデータをお使いください。
 ※端数処理のため、内訳の計と総数が一致しない場合があります。

資料：環境政策課

●市内を流れる代表的河川のBOD経年変化

逢瀬川は流域が住宅密集地にあり、中流地点(幕ノ内橋上流)及び下流地点(阿武隈川合流前)は、他の河川に比べてBODが高くなっています。
 市内の下水道整備が進んでおり、全体的に河川BODの数値は下降または横ばい傾向にあります。



資料：環境保全センター

※BOD

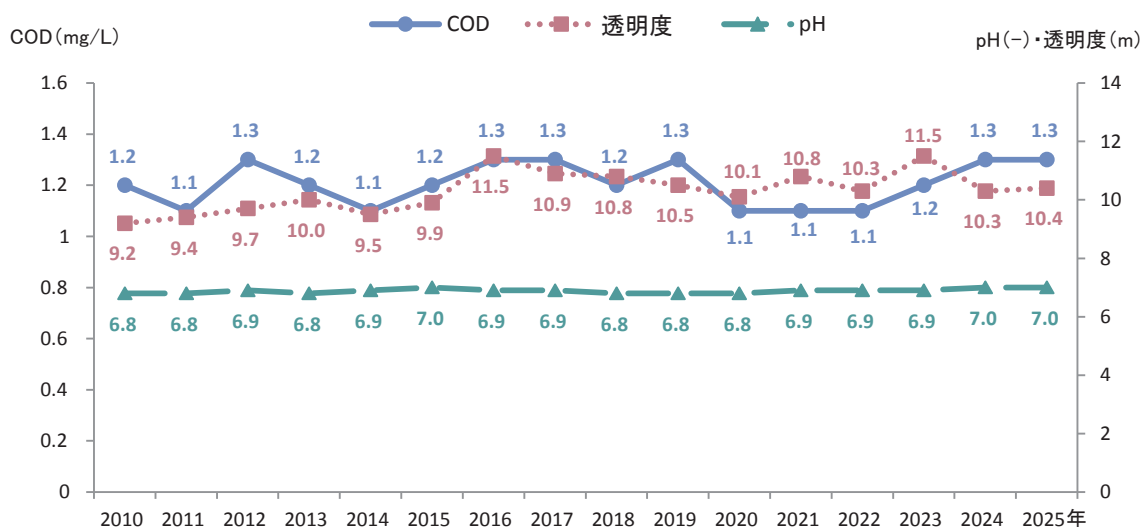
生物化学的酸素要求量(Biochemical Oxygen Demandの略)。河川の水質を判定する指標の一つで、水中の有機物が、微生物によって酸化分解される際に消費される酸素の量をmg/Lで表したものである。一般に数値が大きいほど水質が悪い。

BODは一般に75%値(y個の測定値を値の小さいものから順に並べ0.75×y番目にくる数値)で評価する。上グラフのBOD値は年度(⑦阿武隈川(阿久津橋)は年)の75%値。

⑦阿武隈川については、毎年7月に前年度分が公表されるため、データ作成段階では非公表

●猪苗代湖(湖南)の水質の経年変化

pHは6.8～7.0を推移しており、中性を保っています。
CODも1.1～1.3の範囲にあり、pH同様、横ばい傾向にあります。



資料：環境保全センター

※COD

化学的酸素要求量（Chemical Oxygen Demand の略）。湖沼や海域の水質を判定する指標の一つで、化学薬品（過マンガン酸カリウム）を用いて水中の有機物を酸化分解する際に消費される酸素の量をmg/Lで表したものの。一般に、数値が大きいほど水質が悪い。

CODは一般に75%値（y 個の測定値を値の小さいものから順に並べ0.75×y 番目にくる数値）で評価する。上グラフのCOD値は年の75%値。

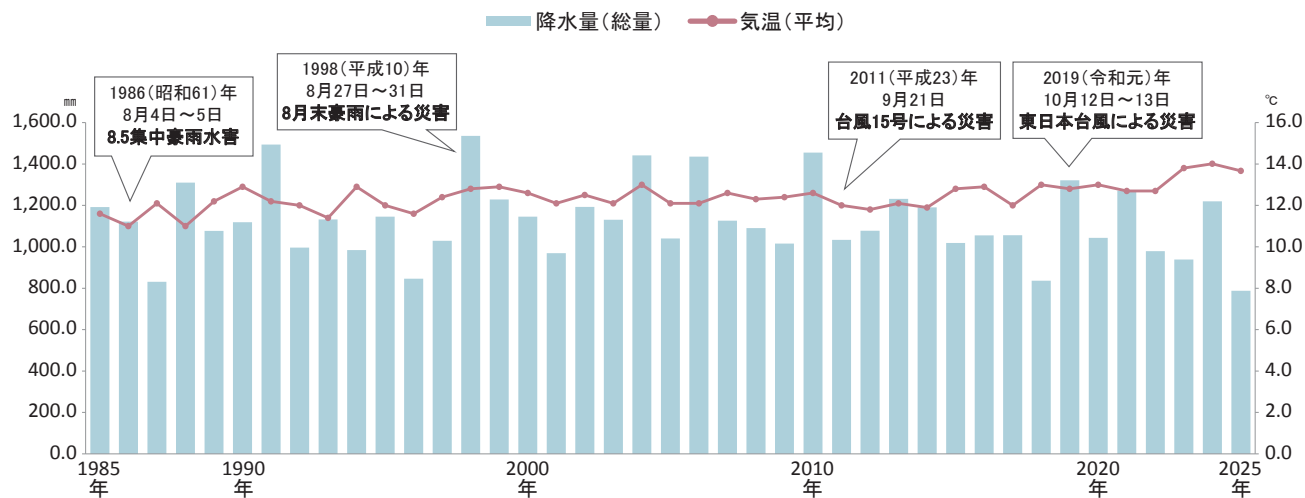
※pH

水素イオン濃度（potential hydrogen, power of hydrogen の略）。酸性、アルカリ性を示す指標で、7.0が中性、これより小さい値になるほど強い酸性を示し、大きい値になるほど強いアルカリ性を示す。

猪苗代湖のpHは、1995年まではpH5.1以下の酸性であったが、1996年以降その値が上昇し、近年は中性化している。

●気象概況(降水量・気温)

気温(平均)は上昇傾向にありますが、降水量(総量)は年ごとにばらつきがあります。



資料：気象庁